

健やかねっと

健和会大手町病院 広報誌 SUKOYAKA NET

2024

vol.109

3月号



災害医療への備えの視点で 災害を考える

災害を考える……………	2-4	外来担当医師……………	6
メディカルラリー参加レポート……………	5		

阪神淡路大震災(1995年1月17日)



熊本地震(2016年4月14日)



東日本大震災(2011年3月11日)

災害医療への備えの視点で 災害を考える

健和会大手町病院 副院長 古城 都



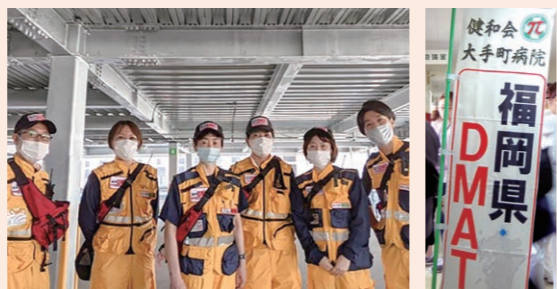
東日本大震災を目の当たりにして

2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。震災発生時、研修先の病棟で担当患者さんの回診をしているところでした。「家や人が流されている」とご高齢の患者さんに言われ、何のことか分からずにナースステーションに戻ると、同僚から震災のことを聞かされました。

テレビに映っている状況は現実のこととして受け入れるまで時間がかかりました。すぐにも現地支援に行きたかったのですが、研修先の身であったためそれも叶わず、被災地の方々を祈るしかなかったことがやしかったのを覚えています。

2013年に大手町病院に帰任し、そこから災害医療対策委員会の委員長に任命され、現在に至るまで院内の災害対応や院外でのDMAT活動(※1)を行なってきました。

※1 DMAT…厚生労働省所管による災害派遣医療チーム。大規模災害や多数の傷病者が発生した事故などの現場で、概ね48時間以内に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チーム。



日本の災害医療の歴史

日本で災害医療が発展してきたのは1995年の阪神淡路大震災からと言われています。死者6,434名、負傷者43,792名、行方不明者3名(消防庁調べ)。住家については全壊が約10万5,000棟、半壊が約14万4,000棟にのぼったと報告されています。戦後最悪の深刻な被害をもたらしました。

日本はそれ以前にも大きな震災に見舞われています。関東大震災(※2)が最たるものであり、その発生日が「防災の日」と定められています。しかし残念ながら関東大震災から阪神淡路大震災に至るまでの約70年の間、日本は災害医療に関しては十分な発展を遂げられませんでした。それは土地、建築、組織の在り方を含みます。日本の地理、土壌を考えた構造建築であったか、被災時の緊急対応はどうすべきであったか、など反省すべき点・教訓となる点は多数あったはずですが、しかし、その後の第二次世界大戦、経済復興に目を奪われ、災害に対する意識が薄れていってしまった現実があります。そしてその後の阪神淡路大震災。日本人の特性なのか、喉元過ぎれば状態で時間が経過し、災害対策がおろそかになっていました。

災害医療への課題は山積み

東日本大震災から10年以上の月日が流れました。熊本地震からもあと2年で10年になります。今の私達は災害に対する意識は薄れていないでしょうか。

日本は世界の中でも自然災害が多い国です。約10年に1度は震度6を越える地震が発生しています。地震のほか近年は豪雨・河川氾濫・土砂災害が増加しています。決して自分とは無関係なことではなく、いつ自分の身に起こってもおかしくない認識しなければなりません。首都直下型地震、南海トラフ巨大地震はまさに政府が対応策に力を入れている、近い未来に起こりうる震災です。

巨大地震発生時、初動については具体化されてきていますが、インフラが壊滅的になった現場にどのように支援に行くのか、そして被災者・負傷者に対する対応や広域搬送計画に関してもまだまだ不十分な点が多く問題は山積みです。

※2 関東大震災…1923年9月1日に発生した南関東および隣接地における大地震。死者・行方不明者は推定10万5,000人で、明治以降の日本としては最大規模の地震被害。



関東大震災



阪神淡路大震災

いつでも起こりうるものとしての 備えが大切

災害は起こるものとして発想を切り替えなければなりません。そして減災のために私たちが出来ることを個人として、家族の一員として、学校・会社の一員として、市町村の一人として準備しておくことが大切です。発災時の身の守り方、家族内での決め事、学校・会社の中でのBCP(事業継続計画)、災害拠点病院を中心として他医療機関との連携。一つ一つの確認作業とその具体化が「防ぎ得た災害死」を最小限にすることに繋がるのです。

(次ページへつづく)



災害への当院の備え

当院は北九州にある9つの災害拠点病院の一つです。災害拠点病院が機能不全になるとそこから計画されている医療計画が根底から崩壊してしまいます。機能不全になる原因は種々ありますが医療資源枯渇、人的資源不足、インフラ崩壊などが重大事項です。一病院のみでこれらを万全の体制に整え、まかなうことは不可能です。地域の医療機関と連携して医療、保健を展開していくことになると思われます。

大手町病院は2022年3月に新病院に移転しました。随所に災害時を想定した設計を組み込んでいます。災害拠点病院としての役割を認識し、防災活動含め地域の方々安心して頂ける病院を目指して今後もより一層邁進して参ります。

一人一人の意識が災害を乗り越える力になると信じています。
(令和6年能登半島地震でも当院は日本DMATを石川県穴水町に派遣。大手町病院内にも対策本部を立ち上げ活動を行いました。)



全職員が知識・経験を備えるための災害訓練

健和会大手町病院では災害拠点病院として、毎年1回災害訓練をおこなっています。災害拠点病院とは近隣の災害発生時に県知事の要請を受けて傷病者の受け入れや医療救護班の派遣をおこなう病院です。

災害発生時に、多数の傷病者の受け入れや被災者に対して最善の医療を提供し、その事態に対応ができるようになるために、全職員が災害医療に対する認識と知識および経験を備えるという責務を有しています。そのための取り組みとして、

2004年に第1回災害訓練を開催、以来毎年訓練を重ねながら対応力の向上につとめています(集中豪雨被災地支援とコロナ禍で2回中止)。

訓練では近隣で交通災害や大規模地震などが発生したと仮定。対策本部(司令部)の設置やトリアージなど本番さながらの緊張感で行います。訓練後には参加者一同で振り返りをおこなう中で改善点を共有し、次回の訓練につなげています。

第1回災害訓練(2004年)～第16回災害訓練(2023年)
1回/年開催(集中豪雨とコロナ禍で2回中止)

第1回 災害訓練



第13回 災害訓練



政府災害訓練





第20回 千里メディカルラリー 参加レポート



健和会大手町病院
外科医長
久保 佑樹



健和会大手町病院
救急外来看護師
安藤 紗瑛

市の救命士とタッグを組んで参加

メディカルラリーとは、医師・看護師・救急救命士の多職種でチームを組み、模擬患者さんに対して限られた時間内での救命救急のスキルを競う大会です。6人1チームで模擬患者さんに接触し、シナリオごとに評価者が採点しており、全国各地から参加するチームが、10シナリオの合計点で順位を競います。シナリオは、多数傷病者への対応や、心肺停止状態への処置・対応、小児救命、妊産婦・新生児救急対応など様々な課題が課せられるため、広い分野の知識・技術が必要になります。

今回、2023年12月2日(土)の第20回千里メディカルラリーに北九州市の救急救命士2名、大手町病院の医師6名、看護師2名の計10名で参加させていただきました。



ラリー参加の様子

緊張が高まるシチュエーション

千里メディカルラリーは日本のメディカルラリー発祥の大会だけでなく、模擬患者さんは血のりや特殊

メイクによりかなりリアルに再現されていることに加え、家族の助けを呼ぶ叫び声や見学者による野次なども私達参加者の緊張感を高め、本物の救命現場のようでした。マンションの崩落現場での救助・救命処置、木材破砕の機械に両足を挟まれている患者さんへの救急対応、プールで溺れた小学生2名への対応など複数救命の困難さや優先順位の考え方など多種多様な課題が課されました。採点基準も細かく設定されており、災害避難所での救急対応シナリオでは、避難所に入る際に挨拶をしているか、靴を揃えて入室しているかなども加点対象となっており、救命だけでなく接遇についても重要視されていました。

この経験を活かして

メディカルラリーへの参加を通して、現場での適切な救助・救命処置を学ぶことができ、日本全国の救命救急のレベルの高さを体感しました。健和会大手町病院は北九州市の救急告示病院として「断らない医療」を掲げ、日々多くの患者さんが搬入されています。メディカルラリーでの経験を活かし、一人でも多くの患者さんの命を救うことはもちろん、患者さん・家族の気持ちに寄り添った対応をしていきたいと強く考える貴重な機会となりました。今回の経験を日常の業務にも活かし、チーム医療を幅広く展開していきたいと思ひます。



外来担当医師（3月予定）

診療受付	午前…8:40～11:30 午後…13:30～16:00 ※午後は予約のみです。 (初診の受付は午前 8:40～11:00まで)
診療時間	午前…9:00～12:00 午後…14:00～17:00
休診日	日曜・祝日、第2・4土曜、年末年始(12月30日～1月3日)

3月							4月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2		1	2	3	4	5	6
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30				
31													

ご注意ください

- 第2・第4土曜日は休診になります。
- 診療体制が変更される場合がありますので、詳細はお問い合わせください。
- 午後の内科診療は、予約の方を対象とした専門外来のみです。
- 水曜の耳鼻科は検査のため11時以降1時間程度中断することがあります。

	月	火	水	木	金	土
内科	午前 鐘ヶ江靖夫(初・循環器) 下園孝治(初・再診) 是永秀樹(糖尿) 山口征啓(初診) 根井貴仁(②・④SAS)	内村作子(糖尿) (3週除く) 田場正直(循環器) 下園孝治(初診) 龍野奈央子(消化器)	渡辺周(初・血液) 是永秀樹(糖尿) 原田浩介(初・再診) 竹中仁(循環器) 春木明代(脳神経内科)	下園孝治(初・再診) 佐竹真明(消化器) 中尾英太郎(初診) (不定期) 河野俊一(循環器) (4週除く) 井上三保子(高血圧)	非常勤医師(膠原病) 内村作子(内科・糖尿) 下園孝治(初・再診) 阿部陽子(初診)	田場正直(循環器) 是永秀樹(糖尿) 非常勤医師(初診)
外科	午前 松山 晋平 松山 純子	三宅 亮 久保 佑樹	古城 都 梅田 滉弥	三宅 亮 香川 正樹	山下さくら 常勤医師	①三宅亮③古城都 ⑤松山 純子
整形外科	午前 酒井 和裕(手外科) 馬渡 玲子	古川 雄樹(手外科) 濱崎 将弘(脊椎外科)	吉野興一郎(リウマチ) 原口 和史(関節外科)	永吉 信介 酒井 和裕 (手外科・スポーツ) 久保 博之	古川 雄樹(手外科) 濱崎 将弘(脊椎外科)	輪 番 ③辻 王成
脳神経外科	午前 岡崎 光希(初・再診)	藤山 雄一(初・再診)		岡崎 光希(初・再診)	藤山 雄一(初・再診)	①⑤輪 番 ③末廣 栄一
産婦人科	午前 佐々木俊雄 今井 彰子 妹尾 悠	佐々木俊雄 今井 彰子	佐々木俊雄 今井 彰子 妹尾 悠	佐々木俊雄 今井 彰子	佐々木俊雄 今井 彰子 妹尾 悠	輪 番
耳鼻科	午前 土生 秀明 増野 賢二	増野 賢二	土生 秀明 増野 賢二	土生 秀明 増野 賢二	土生 秀明 増野 賢二	土生 秀明
皮膚科	午前 山本 淳子	田島 翔子	大橋 隆宏	山本 淳子	田島 翔子	輪 番
形成外科	午前 増田 大介	多田 英行	増田 大介		多田 英行	輪 番
泌尿器科	午前 菅野 貴洋	松田 健二	栗栖 弘明	池田 英夫	池田 英夫	輪 番
眼科	午前 高尾 瑞季(産医大)	奥 一真(産医大)	浅野真美加(産医大)		浅野真美加(産医大)	

午後 (予約制)	高血圧	井上三保子(月曜)
	脳神経外科	パーキンソン・てんかん・痛み専門(①③⑤月曜・①土曜) 井本 浩哉(山口大学 脳神経外科)
	労働衛生	田村 昭彦(第2・4月曜)
	病理診断	松木 康真(水曜・金曜)
	フットケア外来	石井 義輝(第2火曜)
	消化器内科	大野 朋子(水曜)
	循環器内科	河野 俊一(第4木曜/13:30～17:00)
	呼吸器内科	茂見 紗喜(火曜/13:00～16:00)
	呼吸器内科	榊原 秀樹(金曜/14:00～17:00)

インフォメーション Information

資格を活かせるお仕事。急性期から慢性期まで幅広く活躍できる！
当院で働ける看護職員を募集しています

①看護師(正職員・パート) ②看護助手(パート)

時間▶【正】日勤 8:00～16:20、8:40～17:00

▶準夜 16:00～24:20 ▶深夜 24:00～8:20

【パ】時間応相談、1日3h～OK

3交替制
シフト制

資格▶①【正】看護師【パ】看護師・准看護師 ②資格不問、未経験者歓迎

賃金▶【正】当院規定による【パ】①時給1,320円～1,620円②時給1,010円～

待遇▶【正】交通費支給(規定内)、社会保険完備、賞与年2回、各種手当(家族・住宅手当、世帯主手当等)、院内保育所、単身用宿舍、時間外労働手当、夜勤手当、退職金、リフレッシュ休暇、定期昇給あり、介護休暇、産休・育児休暇



採用案内はこちら

健和会大手町病院

看護対策室 ☎093-592-3052(内線4115)

MAIL kango@kenwakai.gr.jp(担当:西郡明子)
〒803-8543 北九州市小倉北区大手町15-1



●広報誌に関するご意見・ご要望は左記までお願いします。
差出先の明記がある方には直接ご連絡にて説明させていただきます。

〒803-0814 北九州市小倉北区大手町13-1
TEL 093-592-5511(代)

FAX 093-592-5966
E-mail renkei@kenwakai.gr.jp

https://otemachi.
kenwakai.gr.jp